

Welcome Change

FUJIFILM Business Innovation Corp.

**Creating spaces where everyone feels
empowered by innovation.**

情報、そして人。企業の資産といえる
その二つの視点から企業に寄り添ってきたからこそ、
富士フイルムビジネスイノベーションが導き出せる価値。
ビジネスを力強く飛躍させていく真のDXの姿を解き明かすシリーズ記事、
第二弾・第三弾はこちら。

DX for Information

情報活用によるデジタルトランスフォーメーションで
経営課題を解決する。

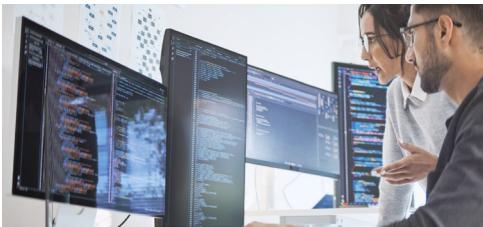
DX for people

一人ひとりの働く意識、企業風土まで変革する
デジタルトランスフォーメーション。

Welcome Change Story 2

Creating Spaces Where Everyone Feels Empowered by Innovation

情報活用によるデジタルトランスフォーメーションで
経営課題を解決する。



情報を起点に経営課題を解決し、企業にさらなる競争力を。

全世界の労働力人口の50%を占めると言われるアジアパシフィック。企業にとって、競争力を生み出す源泉は「人」、そして「情報」。その「情報」をいかに働く人が活用できる環境を創るか。その課題を感じている企業が多い。アジアパシフィックにとどまらない世界に共通する喫緊のテーマだ。前身の富士ゼロックス時代から情報の価値を最大限に高め、円滑なコミュニケーションを実現することで企業の変革を支え続けてきた富士フィルムビジネスイノベーション。同社が提供する情報ハンドリングに焦点を当てた、ビジネスをさらに強くするデジタルトランスフォーメーションのメソッドとは。

すべてのビジネスに、寄り添い続けるデジタルトランスフォーメーション。

情報を処理する工程を変えることで、業務の創造性は高まる。

「富士ゼロックス時代から、紙だけではなくコミュニケーションに関わるすべての情報を企業の資産と考え、その扱いに60年以上取り組んできました」。そう語るのは、富士フィルムビジネスイノベーション執行役員・菊池史朗氏。企業において業務時間の多くが情報を処理することに使われているのが実態だと続ける。同社は、リモート環境を含むオフィス業務領域の情報にまつわるすべてのプロセスを事業ドメインと捉え、業務プロセスの標準化、均質化、そして手戻りやミスの削減をいかにデジタルトランスフォーメーションで実現していくかを追求している。働くすべての人が自らの持つ能力を最大限に発揮し、社員一人一人の能力を創造性の高い業務へ振り向けることができる環境構築を提供することは、アジアパシフィックを含んだ世界にとって求められている答えの一つといえるだろう。富士フィルムビジネスイノベーションは、さまざまなソリューションを提供し続けているが、直近ではクラウド上で情報を集約し社内外をシームレスにつなぐデジタルワークスペース「FUJIFILM IWpro」など、新たなコミュニケーション環境の提供を推進している。「世界で最も優れたソリューションが、必ずしもお客様にとって一番の答えとは限りません。国や企業それぞれの文化を持つお客様を深く理解し、適時に適切にお客様に合うものを提供して、課題解決に向けて伴走し続けていくことが重要です」菊池氏は強調する。



富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
執行役員 菊池史朗

目に見えない企業の資産を伝えることでも、情報価値の最大化。

近年、企業と情報の関係性に新たな課題を感じるようになったと菊池氏は語る。

「情報には、業務のノウハウ、企業改善のDNAが内包されている。それも大きな価値です。一方で時代とともにビジネスにおけるコミュニケーションは変わっている。リアルでのやりとりが減り、そのノウハウやDNAを次の世代につなげていくことが難しくなっている。

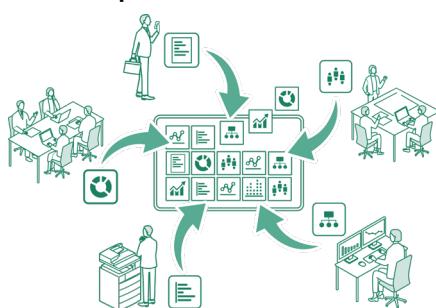
だからこそ、富士フィルムビジネスイノベーションはその領域でお役立ちしたいと考えています。」

企業の資産となる可能性を秘めた情報。それを活用したいという意志を持つために、情報の環境をマネジメントする。彼らが掲げる「情報価値の最大化」。それは、情報そのものの扱い方にとどまるのではなく、企業の文化に変革を起こす手段にもなるのだ。

事業を、ともに成長させていくパートナー。

情報に向き合い、プロセスそのものを刷新することで、経営に直結する業務品質や企業風土の改革に着手した企業を紹介する。グローバルにインテリア商品を扱う株式会社サンゲツは、海外取引のために発生し、7年にわたる保管の必要な貿易文書の管理環境を刷新するため、富士フィルムビジネスイノベーションとプロジェクトに取り組んだ。海外事業部門海外ビジネスユニットマネージャーの角田歩氏は、「複数の国々をまたぐ事業を行う中で、文化や価値観を尊重すること。自分の価値観に合わせた便利さを追求するのではなく環境に人が合わせ、ビジネス、会社を変えるために自分たちのやり方も変えていく、そんな発想で挑んでいくことが事業をともに成長させていくために必須であると考えます。走りながら構築していく中でパートナー企業に伴走していただくことはプロジェクトの成功にあたり欠かせない条件でした」と語る。富士フィルムビジネスイノベーションはこれまで複合機をはじめとした、情報の取扱い方の革新で同社のビジネス変革に貢献してきた。長年、変化し続けるビジネスとともに向き合ってきたからこそ、確かな信頼が両社には築かれている。

FUJIFILM IWpro



お客様に合わせた伴走支援で、単なる情報の可視化だけでなく、企業内に点在する様々な情報を必要な時に必要な人が使える状態に。これまでにない価値創出をサポートします。

要望にいち早く応える存在であり続ける。

現場のチームを率いる海外事業課長の樋上智子氏は

富士フィルムビジネスイノベーションについてこう評価した。「お客様への輸出、商品情報に関わる、過去に遡って7年分の書類をこれまで紙を出力の上、ファイル保管していく量は膨大だった。電子化を加速させながら、関連部署の業務の可視化を実現する今回のプロジェクトを社内に納得させるにはこれまでの文化を変える、その初動の難しさを越えたメリット、活用による効果を社員全員が納得して取り組むことが必須でした。

富士フィルムビジネスイノベーションには、業務を深く理解いただいているため、質問への回答やサポート依頼に、迅速かつ適切に対応いただいている実感がありました。新しいサービスを導入してもシステム同士の連携が非常によく、現場で働く人に寄り添ってもらっているソリューションである印象が強い」と樋上氏は語った。

大切なことは、いかにスムーズに改善へ踏み出せるか。課題解決に向けてともに走り続ける存在であることが、大きな安心感になる。

アジアパシフィックに、かつてない進化を。

グローバルサプライチェーンの一翼として重要な役割を担うアジアパシフィック。だからこそ、ビジネスはフレキシブルに変化できなければならない。その観点から見ると、お客様ごとの業務プロセスを深く理解し、都度最適なソリューションを提供し続ける

富士フィルムビジネスイノベーションのデジタルトランスフォーメーション。同社の目指すデジタルトランスフォーメーションが貢献できる領域は、限りなく広がっている。アジアパシフィックの変化は、激しく、スピードィーだ。急速にデジタル化が進んだ事実を見ても、それを疑う余地はない。貪欲に成長し続けるマーケット、それは言い換えると、前例や常識にとらわれることなく、デジタルトランスフォーメーションでまったく新しい進化を遂げられる可能性があるということだ。時代を乗り越え、かつてないほど企業を強くするための解決策を、富士フィルムビジネスイノベーションは提案する。



Welcome Change Story 3

Creating Spaces Where Everyone Feels Empowered by Innovation

一人ひとりの働く意識、企業風土まで変革する
デジタルトランスフォーメーション。



ビジネスを成長させる、大きな力を手にするために。

アジアパシフィックの人材は、多様な価値観で構成されている。情報へのリテラシーや扱うスキル、そして働く意識すらもまちまちだ。アジアパシフィックの現場で働く一人ひとりの意識改革が、これからのグローバルビジネスの成長に大きな力となる。前身の富士ゼロックス時代から情報の価値を最大限に高め、円滑なコミュニケーションを実現することで企業の変革を支え続けてきた富士フィルムビジネスイノベーション。情報と働く人に変革を起こすデジタルトランスフォーメーションとは。

課題を根本から捉え、企業そのものを変革するデジタルトランスフォーメーション。

時代の変化に最も左右される、ビジネスの現場を変える。

業務プロセスを起点に、ビジネスや企業を変えていく。情報というビジネスの根幹を扱うことは、必然的に現場での業務と密接に関わることになる。そしてビジネスや企業の変革は、常に経営層から始まるとは限らない。現場で働く人たちの業務課題解決の意志から芽吹き、大きなうねりとなり、組織の風土改革にたどり着くこともある。世界中で新しい枠組みや仕組みが急速に生まれ、これまでのやり方が通用しなくなる時代。ビジネスやプロセスの変化を生み出すのは「人」である。

情報と働く人、変革における2つの視点。

富士フィルムビジネスイノベーションは、前身の富士ゼロックス時代から、情報活用とそこで働く人という2つの視点からさまざまなソリューションを提供し続けてきた。複合機「Apeos」やプリンターのほか、クラウド上で情報を集約し社内外をシームレスに繋ぐデジタルワークスペース「FUJIFILM IWpro」などにより新たなコミュニケーション環境の構築による情報流通を実現している。

壁資材や床材、カーテン等を扱うインテリア企業の株式会社サンゲツは、デジタルトランスフォーメーションにより、現場の意識改革から組織風土改革を目指す企業の一つだ。

現場の声を受け止め、 伴走し続けるデジタルトランスフォーメーション。

課題解決の原動力になったのは、経営層ではない。実際に輸出業務にあたる海外事業課のメンバー、つまり現場だ。同社は、年間2,000件を超える輸出業務に関わる膨大な紙文書や電子ファイルの保管と、それら文書の属人化という2つの課題を抱えていた。過去の書類の確認や調査が発生した場合、該当のものを探し出す手間も負担となっていたという。書類という「情報」とそれを扱う「人」、2つの視点から変革の必要性があったのだ。現場のリーダーが課内一人ひとりから業務課題を抽出した。その解決に選んだパートナーは、複合機導入の時代から情報の電子化について、ともに取り組んできた

富士フィルムビジネスイノベーション。膨大な文書やファイルの保管と必要書類整理の属人化という課題に対する解は、統合型プラットフォーム「FUJIFILM IWpro」の導入だった。海外事業課で輸出業務を担当している矢野目奈生氏は、「案件管理という業務の中における情報の属人化を改め、書類の分類状況をすべてクラウド上で可視化しました。情報を正しく展開するという業務を達成することで、それまで外からわからなかった各人の業務進捗まで見えるようになりました。進捗の滞っている人に気づき、困っている人に声掛けをするような風土づくりのきっかけにもなったのです」とその取り組みと現場の変化に触れた。

変革の体験により生まれる、さらなる変化の意識。

同社を担当する富士フィルムビジネスイノベーションジャパン愛知支社の土本拓英氏は「幅広い製品とソリューションでお客さまの業務の変革を支援できることが、我々の大きな強み」と語る。課題や状況に応じて、最適化した解決策で貢献ができるのだ。場所を選ばずに業務ができ、書類を探す大変さから解放されたと矢野目氏は変化に言及する。必要な書類の標準化により属人化を防ぎ、格納状況も進捗率で可視化を実現。メンバーへのサポートが容易になり、数多ある情報を誰もが扱いやすい環境が構築された。

ビジネス現場におけるデジタルトランスフォーメーションの最適解が、一人ひとりの業務の質を一斉に向上させ、会社をよりよい方向へと導いていく。そして、メンバー自身の今後の目標にまで変化を促していく。「メンバーの進捗状況を自動で可視化できるような仕組みを整備して、業務品質をさらに上げていきたい。今回の体験で、実現できることを確信しています。富士フィルムビジネスイノベーションは、自分たちの希望を汲み取り一緒に走ってくれるパートナーのような存在です」と矢野目氏。個人の意識改革が組織全体の風土を創り、現場の意識変革を成し遂げた今、サンゲツは企業としての競争力を高めている。



富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
土本 拓英

株式会社サンゲツ
海外事業部門海外ビジネスユニット
海外事業課 矢野目奈生 氏

情報、そして人の力による企業変革を推し進める。

アジアパシフィック市場の重要性は増している。急速な経済成長と多様な文化が融合する場であり、新たなビジネスチャンスが広がっていることは明白だ。

富士フィルムビジネスイノベーションは、情報と働く人の意識を変革することで、企業の変革を促し、この市場の発展を推進する強い意志を持つ。

目指すのは、環境に最適な複合デバイスと持続的な顧客サービスを起点に、あらゆるお客様のデジタルシフトを支えるソリューションパートナーだ。変化の激しいビジネス環境において、お客様ごとの業務プロセスを深く理解し、都度最適なソリューションを提供する富士フィルムビジネスイノベーション。時代や市場の変化に先駆けて自らが変化をすることでアジアパシフィック市場における企業の成功を後押しし、持続可能な未来をともに創造していく存在であるといえるだろう。

DXの現状と課題解決へのアプローチ

- 近年、「2025年の崖」問題やコロナ禍を皮切りに、自社の業務やビジネスをデジタル化して競争力を高めるために、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」への注目度が増しています。
- しかし、多くの企業が紙の電子化やデジタルツールの導入に取り組もうとしている一方、デジタル化やデジタルデータの活用が進まず、DXに取り組む前段階で躊躇しているのが現状です。



システム導入における課題

システムは導入したけれど
間を人手で繋いでいて
思ったほど効率が上がらない…

お客様対応における課題

取引先とのやり取りなど
既存の業務は
大きく変えられない…

業務デジタル化における課題

デジタルでの運用が定着せず
紙と電子が混在。
結局紙がなくならない…

FUJIFILM IWproが、業務のデジタル化を支援しお客様のDXを促進します

FUJIFILM IWproの具体的な活用シーン

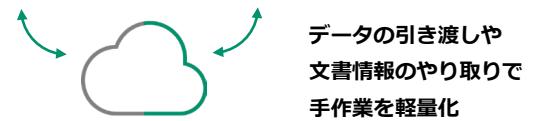
様々な手段で届くデータを一元化

- メール
- fax
- 印刷



データ連携による手作業の軽減

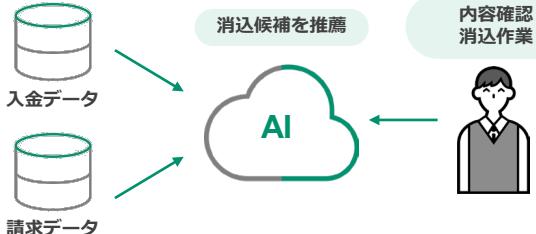
ワークフロー 電子サイン データベース 基幹システム ストレージ



業務プロセスの進捗見える化・共有

工事コード	取引先	受注日	取引金額	受注		施工		アフター	
				見積書	資料外注	注文書	計画書	図面	竣功書
A-123	XYZ建設	2024/05/10	1,580,000	<input checked="" type="checkbox"/>					
A-789	ハマ産業	2024/08/11	2,110,000	<input checked="" type="checkbox"/>					

社内で蓄積したデータの有効活用



さまざまな業務でのFUJIFILM IWproの導入事例

業種	業務	お困りごと
全業種	FAX文書の自動振分け	FAX文書の担当者への振り分けに時間がかかる。
	国税関連書類の保存・処理効率化	ファイル名や格納先のルールが徹底できていない。 支払用システムへの入力ミスが発生している。
	AI活用による入金・請求情報の照合/照会	月末の入金データ、請求データの消込処理が煩雑で時間がかかる。
建設業	工事関連書類の一元管理	工事案件ごとの図面や仕様書、計画書の管理が属人化し、進捗が見えない。
製造業	現場書類の電子管理・検索	不良発生時に過去生産情報の確認に時間がかかる。

FUJIFILM IWpro
商品情報



FUJIFILM IWpro
製品情報



AIで社内データ活用を
促進したい方はこちら



DX推進による
成功ストーリーはこちら

fujifilm.com/fb/solution/menu/iwpro_solution

FUJIFILM

富士フィルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲2丁目2番1号 Tel : (03) 6630-8000

FUJIFILM and FUJIFILM logo are registered trademarks or trademarks of FUJIFILM Corporation. Microsoft, Windows, and OneDrive are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. All product names and company names mentioned in this brochure are trademarks or registered trademarks of their respective companies. The information is as of January 2025.